

令和5年10月24日

滝沢市議会議長 角掛 邦彦 様

滝沢市議会議員 藤原 治

政務活動（調査研究・研修・要請陳情等）実施報告書

滝沢市議会の政務活動費の交付に関する条例第9条に規定する使途基準に基づき、政務活動（調査研究・研修・要請陳情等）を実施したので、報告します。

記

1 期日

令和5年10月17日（火） から 令和5年10月18日（水） まで

2 活動場所

日本青年館ホテル（新宿区霞ヶ丘町4-1）

3 活動内容

別紙のとおり

政務活動シート

調査主体：藤原 治

調査項目名称	調査研究(視察含む) ・ 研修 ・ 一要請陳情等
活動の理由及びその目的	<p>「子どもを守る」をテーマで開催されるセミナーを受講することによって、「子どもまん中」を一つの公約に掲げた新市長、そして新たな総合計画により今後の市政運営を行う本市にとって、今後の議員活動に資すると考え参加した。</p> <p>また、このセミナーは様々な専門的分野で活動をしている多くの講師により、2日間が構成されていることから、非常に有意義な研修と捉えています。</p>
活動概要	<p>●実施日 令和5年10月17日～令和5年10月18日</p> <p>●場 所 日本青年館ホテル(新宿区霞ヶ丘町4-1)</p> <p>●内 容</p> <p>2023年度「第28回清溪セミナー」</p> <p>10/17 ①「二人は同時に親になる～『産後』のずれの処方箋」</p> <p>10/17 ②「地域における顔が見える切れ目ない子育て支援」</p> <p>10/17 ③「子どもたちのこころと命を守るために～学校にアウトリーチするNPO～」</p> <p>10/17 ④「こども家庭庁の創設とこども政策」</p> <p>10/18 ⑤「子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる」</p> <p>10/18 ⑥「ヤングでは終わらないヤングケアラー」</p> <p>10/18 ⑦「すべての子どもの成長と、子育てを支えるためには」</p>
活動成果	<p>講義 I 「二人は同時に親になる～『産後』のずれの処方箋」(13:00～14:20) 講師:狩野 さやか氏(子育てアドバイザー・ライター)</p> <p>【印象に残ったキーワード等】</p> <p>(1) 親になると環境の大激変⇔ママから見える世界とパパから見える世界が違う</p> <p>(2) 国際比較 日本は妻の負担が極端に多い</p> <p>(3) 産後の体力消耗は、フルマラソン並み、これに対し夫は無傷</p> <p>(4) 産後の女性は、常時過労状況⇒誰でも危険な環境</p> <p>(5) 新常識① 育児はひとりのできる分量ではない</p> <p>(6) <input checked="" type="checkbox"/>コンシャス バイアス コミュニケーションのずれが積み重なる</p> <p>(7) 新常識② 「らしさ」から自由になる</p> <p>(8) <input checked="" type="checkbox"/>これからの子育て支援に大切な視点 ママだけを支援するのではない⇒パパママチームを支援する</p> <p>(9) <input checked="" type="checkbox"/>エンダーギャップ指数 2023 全体125位(146か国中) 政治参画138位、経済参画123位、教育47位、健康59位</p> <p>(10) 新常識③ 女性の課題から男女両方の課題へ 保育環境、共稼ぎモデルの社会保障制度、賃金平等</p> <p>(11) このような空気感のある支援のある市町村には、子育て世代が住みつく</p> <p>【所感等】</p> <p>3人の子育てを20年以上も前に終えた自分としては、共働き家庭が当たり前となった時代の変化を実感した。これからの政策とともに、地域づくり、自治会活動の視点の参考としていかなければと実感した。</p>

活動成果	<p>講義Ⅱ 「地域における顔の見える切れ目ない子育て支援」(14:30～15:45) 講師:井上 登生(小児科医)大分県中津市</p> <p>【印象に残ったキーワード等】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)多職種が持つべき視点と顔が見える連携が必要 (2)人事異動があり、継続性がない・・・ことが問題 (3)子育て支援課、教育委員会、生活保護課等々が連携 (4)市民は中津市に支援を求めている、各課に支援を求めているものではない (5)70%～80%の仕事は、誰がやっても同じ仕事だが、それ以外は専門性が必要 (6)多職種、それぞれをリスペクトする(相互尊重) (7)最初の1000日スタディについて(The First 1000Days⇒妊娠から1000日) (8)特定妊婦 <p>【所感等】 中津市の事例のもと講義を受けたが、本市の状況が気になり、研修翌日、特に「特定妊婦」の実態や対応や連携等を担当課に確認してみたが、関係課や関係機関と連携をし対応しているとのことで安心した。今後も注視していきたい。</p>
	<p>講義Ⅲ 「子どもたちのこころと命を守るために～学校にアウトリーチするNPO～」 (16:00～17:10) 講師:重永 侑紀(にじいるCAP 子どもNPOセンター福岡代表理事)</p> <p>【印象に残ったキーワード等】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)リアルな子供17万人の声を聴いてきた(1年間16,000人) (2)年間800回の後援会、研修、ワークショップ(小学校の授業で300クラス) (3)親を集めるのは難しい時代のため、3分程度の動画配信を実施 (4)自治体の様々な部署と委託契約 (5)自らの体に傷つけている子 これまで、1割程度だったが、コロナ以降に増えた (6)子どもに大切な3つの権利「あんしん」「じしん」「じゆう」 (7)サザエさん一家、ちびまる子ちゃん一家のような世帯は、昭和の時代 (8)周りの傍観者を減らす <p>【所感等】 子どもの権利を守るために、徹底的にSOSの発信ができる、見逃さない仕組み、教育、地域づくり等の必要性を痛感した。</p>
	<p>講義Ⅳ 「こども家庭庁の創設とこども政策」(17:15～18:45) 講師:山田 太郎 氏 (参議院議員)</p> <p>【印象に残ったキーワード等】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)ソーシャルワーカーが少なすぎる。予算の確保と担い手の確保。1校一人以上必要 (2)健康は世界トップクラスだが、幸福度はほぼ最下位 (3)ひとり親世帯の貧困度が50%以上 (4)3つの壁 (5)縦の壁(〇〇省)、横の壁(国、県市町村)、年代の壁(出産、小学校、高等教育) (6)国が全面的に責任を持つ⇔こども家庭庁の設立 (7)基本的に「少なくとも困難なことによる子供の命を守る」自殺、虐待なので死なない国にする (8)先進国イギリスなどは、こども政策が20年以上進んでいる (9)子どもの死に関して、個人保護法は、自治体が行う場合には関係ない <p>【所感等】 省庁の縦割り行政の弊害を打破するための「こども家庭庁」の発足に期待するものの、実態はこれからである。期待しながらも、市町村がどのように、実質住民のために政策を実行していくのか、行けるのかしっかりと注視していきたい。</p>

活動成果	<p>講義Ⅴ 「子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる」(9:00～10:30) 講師:泉 房穂 氏(前明石市長)</p> <p>【印象に残ったキーワード等】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども支援からの明石市の好循環 (2) 子ども支援5つの無償化⇒出生率、人口、来街者、地価、市税などの上昇 (3) 全国戻りたい街ランキング1位 (4) 中核市人口増加率1位 (5) 医療費 高校生まで完全無料化、おむつ満1歳まで無料(宅配も) (6) 保育料第2子以降、完全無料化、中学校給食費の無料化(小学生は有料) (7) 市民プールなど、利用料無料化 (8) 子ども食堂全小学校区で開設 (9) 明石市独自の養育費立替(公的立替) (10) 政治は「誰がやっても同じ」ではない <p>【所感等】 今回期待していた講座であった。やはり、7講座中で1番インパクトがあった。市長の公約(10歳のころから、ずーと考えてたことを実行したとのこと)のもとにトップダウン形式で様々な改革・政策を実施してきて、反発等も半端なかったとのこと。本人も話していたが、やり遂げ、成果を出したところがすごい。政策には、熱い思いが必要と改めて感じさせられた。</p>
	<p>講義Ⅵ 「ヤングでは終わらないヤングケアラー」(10:45～12:15) 講師 仲田 海人(作業療法士)</p> <p>【印象に残ったキーワード等】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 小学校高学年から、姉のヤングケアラーを経験 (2) ヤングケアラーを定義する法律もなければ、解釈も変動する (3) 先生や専門家に聞いても、相談しても解決しない (4) 社会人になってからも親代わりに働く(若者ケアラー) (5) ケアラー協議体(官民連携の必要性) (6) 市町村、県で対策や認識がバラバラ (7) 学校は何の役割を担うべきなのか (8) 学校からの連携のプロセス(スクールソーシャルワーカーの活用 栃木県) <p>【所感等】 近年、問題化してきているこの問題も、長年、放置されてきている課題であると再認識した。この課題も「こども家庭庁」の支援の枠組みとなっているが、その支援体制・予算がスムーズに運用されるよう注視していきたい。</p>
	<p>講義Ⅶ 「すべての子どもの成長と、子育てを支えるためには」(13:15～14:45) 講師:野田 聖子 氏(衆議院議員)</p> <p>【印象に残ったキーワード等】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 家族の構成の変化 単独世帯38% (2) 給与の男女間格差(国際比較) 77.9% 非常に大きい・・・平均88.1% ピーク時 43.1万円⇔31.0万円 年齢が高まるにつれて、その差が拡大。更に地方での格差が大きい。 (3) DV相談者の年齢・相談内容 ⇒ 離婚につながるケースがある (4) ひとり親世帯の状況 母子世帯 非正規率 46% 平均月収 236万円 養育費受領率 28.1% 父子世帯 非正規率 8% 平均月収 496万円 " 8.7% (5) 中絶が多いのは、地方のほうで、地方の問題でもある。 (6) いじめは、学校の問題ではない。地域の問題とすべき。 <p>【所感等】 元こども政策担当大臣でもある野田国会議員の生の声での講演を聞いた。こども政策とともに、やはり女性の地位向上、所得面や離婚後の養育費などもっと厳しい制度化・法律改正がまだまだ必要と思われた。こども家庭庁を熱意をもって推進した山田太郎議員のように、国民に目を向けた国会、政府与党になってほしいとつくづく感じた。</p>

研 修 行 程 表

年 月 日	時 刻	行 程
令和5年10月17日 (火)	9:06~11:56	盛岡駅⇒東京駅 (JR 新幹線はやぶさ 108号)
	12:30~18:45	【研修】 日本青年館ホテル8Fカンファレンスルーム (新宿区霞ヶ丘町4-1) 「第28回清溪セミナー」 【宿泊】 京王プレッソイン新宿 (新宿区西新宿3丁目4-5)
令和5年10月18日 (水)	9:00~15:00	【研修】 日本青年館ホテル8Fカンファレンスルーム (新宿区霞ヶ丘町4-1) 「第28回清溪セミナー」
	16:20~18:33	東京駅⇒盛岡駅 (JR 新幹線はやぶさ 35号)